

5年1組 国語科学習指導案

授業日 平成25年6月18日(火) 5校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 里村 穰
会場 5年1組教室

1 単元名 「森林について考えよう」

教材名 「森林のおくりもの」(東京書籍5年下)
「イースター島にはなぜ森林がないのか」(東京書籍6年上)

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の以下の内容を受けて設定する。

C 読むこと(2)内容

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらいふこと。

本単元では、類似する話題について異なる視点で書かれた二つの教材文を扱う。

二つの教材文に類似する話題は、「森林」である。扱う教材文の内容は、次のとおりである。

教材文Aは、「森林のおくりもの」である。「森の国・木の国日本」という話題を日本とヨーロッパとの建物や生活の比較から提示し、木材・紙・燃料としての森林の活用、保水・防災・養分補充としての森林の働きを事例として挙げ、「森林は、先祖たちが現代におくってくれたかけがえのない遺産であり、緑豊かな国土に生まれたことの幸せに感謝し、森林を育てる仕事のすばらしさやとうとさを考えなければならない」とまとめている文章である。

教材文Bは、「イースター島にはなぜ森林がないのか」である。「絶海の孤島であるイースター島に森林がなくなったのはなぜか」という問いを提示し、人間による食糧生産・食糧獲得・宗教的文化的儀式的目的による森林伐採、ラットによる食害、森林が完璧に破壊されたことによる人口減少や文化の荒廃を事例として挙げ、「今後の人類の存続は、むしろ、子孫に深く思いをめぐらせる文化を早急に築けるかどうかにかかっているのではないだろうか」とまとめている文章である。

本単元で、この二つの教材文から学ぶ価値は、次のとおりである。

- ①一つの事象について異なる視点から書かれている文章を読むことで、筆者の考えの相違点に気づき、筆者の考えと事例との関係性から筆者の考えを解釈することができる。
- ②筆者の伝えたい考えには共通点があり、二人の筆者の考えを束ねて筆者の考えを解釈することができる。

また、この単元での学習が、5年生社会科「農林水産業」の学習や、佐渡自然教室での森林保全の活動へと活かされることも期待できる。

3 本単元で目指す姿と学びをつなぐ場面、「考えるすべ」

本単元で目指す子どもの姿は、二つの教材文(「森林のおくりもの」と「イースター島にはなぜ森林がないのか」)とを順に読み、二人の筆者の考えを読み取らせ、読み取った二人の筆者の考えを比較することで、筆者の考えに解釈を加えて共通点を見出し、この解釈を手がかりに自分の考えを形成する子どもである。この姿が、**筆者の考えを比べ読むことで、自分の考えを形成する子ども**の姿が具現されたものである。

この目指す姿になるためには、「二人の筆者の考えは分かった。この考えに対して自分はどんな考えをもてるだろう」という問いをもち、「どちらの筆者の考えにも共通する考えがあり、この共通する考えが大事そうだ」という見通しをもつ場面が必要である。

そのために、まず、**一つめの説明文の筆者の考えと二つ目の説明文の筆者の考えとの比較をさせて分類**し、自分の解釈を加えながら共通点をとらえさせる。

次に、とらえた筆者の考えの共通点とその根拠となる解釈とをワークシートに書かせることで、筆者の考えに対してどのような解釈をしたのかを意識付け、発表させることで、多様な解釈をつかませる。

そして、自分や他者の解釈を手がかりに**二人の筆者の考えを共通する点で関係付け**、自分の考えを形成させる。

4 指導計画 全10時間 (30Q)

《学習活動》

《働き掛け》



5 指導の構想

子どもは、一つ目の教材文「森林のおくりもの」の筆者の考え（森林は先祖からおくられたかけがえのない遺産であり、緑豊かな国土に生まれたことの幸せに感謝し、森林を育てる仕事のすばらしさやとうとさを考えなければならない）と、二つ目の教材文「イースター島にはなぜ森林がないのか」の筆者の考え（今後の人類の存続は、むしろ、子孫に深く思いをめぐらせる文化を早急に築けるかどうかにかかっている）を読み取っている。

一つ目の教材文を基に二つ目の教材文を読むことで、文章内容の違いから、二人の筆者の考えの相違点は、認識している。しかし、二人の筆者の考えの共通点は、まだ明確にはつかんでいない。子どもは、「二人の筆者の考えは分かった。この筆者の考えに対して、自分はどんな考えをもてるだろう」という意識でいる。この意識になった子どもを、問いをもった状態と見なす。この状態の子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 1

それぞれの筆者の考えの共通点を問う。

筆者の考えに対して自分の解釈を導き出す働き掛けである。

教材文Aでは、「森林の活用（木材，紙，燃料）と，森林の働き（保水，防災，養分補充）」という森林があることで得られる恩恵についての事例を挙げながら，「森林は，先祖たちが現代におくってくれたかけがえのない遺産であり，緑豊かな国土に生まれたことの幸せに感謝し，森林を育てる仕事のすばらしさやとうとさを考えなければならない」と主張している。

教材文Bでは，「人間による森林伐採（食糧生産，食糧確保，宗教的・儀式的目的）と，ラットによる食害，森林破壊による文明の崩壊，人口減少」という森林がなくなった原因と森林がないことによる弊害についての事例を挙げながら，「今後の人類の存続は，むしろ，子孫に深く思いをめぐらせる文化を早急に築けるかどうかにかかっているのではないだろうか」と主張している。

二人の筆者の考えの共通する部分は，「人・時・考える」である。「人・時」は，二人の筆者の考えの叙述にある「先祖」「子孫」という二つの言葉から導き出される。「考える」は，「考えなければならない」「思いをめぐらす」という二つの言葉から導き出される。二人の筆者の考えを掲示し，「二人の筆者の考えには，どのような共通点があるのでしょうか」と発問し，共通点という視点で比較させる。考えの叙述にある「先祖」「子孫」という言葉は，表記上では相違点として読みとれる。しかし，筆者の考えの言葉を自分の分かる言葉で書き換えさせ，解釈させることで，「どちらの筆者も，人の関わり方について考えている」「これまでとこれからの違いはあるが，どちらも時を意識している」ということや，「考えなければならない」「思いをめぐらす」という言葉から「わたしたちに考えようということを伝えている」という筆者の考えの共通点に気付くことができる。子どもは，「挙げられている事例は違い，筆者の考えも違う部分があるけれど，どちらの筆者も，人・時・考えようということが，考えの中に入っている。」「自分の言葉に置き換えてみると，筆者の考えが分かりやすくなった」と意識し，考える手がかりをつかむ。この状態の子どもに，次のように働き掛ける。

働き掛け 2

ワークシートに筆者の考えの共通点と，その根拠となる解釈を書かせ，発表させる。

働き掛け1を受けて，二人の筆者の考えの共通点（人・時・考える）を探し，そこに自分の解釈を加えている。筆者の考えの叙述のどの部分にどのような解釈を加えたことにより，二人の筆者の考えの共通点を見つけられたのかをワークシートに記述させ，発表させる。ワークシートに書かせることで，どのような解釈をしたのかを意識付けることができる。発表させることで，他の人の解釈を知ることができ，他の人の解釈を参考に，筆者の考えに対して多様な解釈をさせることもできる。子どもは，自分や他者の解釈を手がかりに，**二人の筆者の考えを共通する点で関係付けて**，自分の考えを形成しようとする。

この状態の子どもに，次のように働き掛ける。

働き掛け 3

筆者の考えに対する自分の考えを記述させる。

筆者の考えに対する自分の考えを記述させる。自分が筆者の考えに対してどのような解釈をしていたかを整理することになる。「二人の筆者の考えを自分の言葉に置き換えてみると，人との関わりという共通する考えが分かった。この人との関わりで考えてみると，わたしは，□□という考えをもった」「二人の筆者は，特に時ということを強く意識していたことが分かった。森林と時の変化とで考えてみると，わたしは，〇〇という考えだ」など，子どもは，自分の考えを形成する。

この一連の学習を経験した子どもは，目指す子どもになる。

6 本時の構想 7/10時間（45分授業）

(1) ねらい

二人の筆者の考えの共通点を探る中で，筆者の考えに解釈を加え，自分や他者の解釈を手がかりに自分の考えを形成することができる。

(2) 主張（展開） 3Q（45分）

— このような子どもに（C0） —

《本単元までに関して》

○ 類似する話題「森林」について

- ・森林について考える機会は少なく，森林に関する知識や経験には個人差がある。
- ・5年生で行う「佐渡自然教室」において，トキが住めるように森林整備の活動にも取り組むことを知り，森林に対しての興味をもち始めている。

○ 説明的な文章の学習について

- ・段落のつながりを意識して読んだり，事実と意見とを区別しながら読んだり，文章を大きく3つの意味段落に分けたりする学習を，前学年までに行っている。

《本単元に関して》

○ 一つ目の教材文「森林のおくりもの」の題名読みから，文章の内容と筆者の考えを予想している。

- ・「おくりもの」とあるから，何か素敵なものを与えてくれているんだろう。
- ・素敵なものを与えてくれる森林を大事にしようというのが，筆者の考えかな。

○ 「森林のおくりもの」を読み，内容を文章構成図（序論・本論・結論）にまとめ，筆者の考えをとらえている。

- ・日本人は，ヨーロッパの人達と比べると，昔から森林のめぐみを使って「木のくらし」を築いていた。
- ・森林の木材が生活の様々な場面で活用されていて，森林には，私たちの生活を守る働きもあるんだな。
- ・筆者は，「森林は，先祖たちが現代のわたしたちにおくってくれたかけがえのない遺産であり，緑豊かな国土に生まれたことに感謝し，森林を育てる仕事のすばらしさ，とうとさを考えなければならない」という考えだ。

○ 二つ目の教材文「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み，内容を文章構成図（序論・本論・結論）にまとめ，筆者の考えをとらえている。

- ・現在のイースター島には，森林がほとんど見られず，失われてしまった。
- ・人間の食料確保や宗教的・文化的な目的のために森林が伐採されたり，ラットが木の再生を妨げたりしたことで森林は破壊され，その後の人々はきびしい運命をたどったんだな。
- ・筆者は，「今後の人類の存続は，むしろ，子孫に深く思いをめぐらす文化を早急に築けるかどうかにかかっている」という考えをもっている。

○ 考えを読み比べて相違点に気付く，筆者の考えと事例との関係を解釈している。

- ・森林のおかげで私たちの生活があるので，筆者は「感謝しよう」と考えている。
- ・森林がなくなる怖さから，筆者は「子孫に思いをめぐらせる文化を早急に築こう」と考えている。

○ 「二人の筆者の考えは分かった。この筆者の考えに対して，自分はどんな考えをもてるだろう」という問いの意識をもっている。

— このように働き掛けると【働き掛け1】 —

○ それぞれの筆者の考えの共通点を問う。

【指示】「『森林のおくりもの』と『イースター島にはなぜ森林がないのか』を読んで，文章の内容や筆者の考えを読み取りましたね。それぞれの文章の内容と筆者の考えを発表してください。」

※それぞれの説明文を読み取った際にまとめた文章構成図を基に，発表させる。

※黒板を上下に分け，それぞれの題名を掲示し，発表される内容と筆者の考えを対比的に見られるようにまとめる。

【指示】「文章の内容や筆者の考えには，違いがありましたね。どの部分が違うか発表してください。」

※発表された違いは，丸で囲み，分かりやすくする。

【発問】「筆者それぞれの考えには，違いがありましたね。ですが，二人の筆者の考えには，共通点もあります。二人の筆者の考えには，どのような共通点があるのでしょうか。」

【補助発問】「筆者の考えの言葉を自分の分かる言葉に書き換えてみましょう。」

このようになり (C1)

- 二人の筆者の考えを読み返し、共通点を探る。

教材文 A : 『森林のおくりもの』
(筆者の考え)

森林は、先祖たちが現代のわたしたちにおくってくれたかけがえのない遺産であり、緑豊かな国土に生まれたことに感謝し、森林を育てる仕事のすばらしさ、とうとさを考えなければならぬ。

教材文 B : 『イースター島にはなぜ森林がないのか』
(筆者の考え)

今後の人類の存続は、むしろ、子孫に深く思いをめぐらす文化を早急に築けるかどうかにかかっている。

- ・文章を読み比べて、内容の違いや筆者の考えの違いは、すぐに分かったけれど、この二人の筆者の考えに共通するところはあるのかな。
- ・読んだだけでは、よく分からないな。
- 筆者の考えの言葉を自分の分かる言葉に書き換え、解釈をしながら共通点を探る。
- ・自分の分かる言葉で書き換えればいいんだな。
- ・『森林のおくりもの』では、「森林は、大昔の人達から送られた大切なものなので、緑豊かな日本に生まれたことに感謝して、森林を育てている仕事のすばらしさやとうとさを考えなければならぬ。」となるかな。
- ・『なぜイースター島には森林がないのか』では、「これからの人類が生き残れるかどうかは、未来の人達のことを考えられる文化をすぐに作れるかどうかにかかっている」ということかな。
- ・自分の言葉で書き換えてみると、「人達」というところが共通している。
- ・「大昔」「未来」と、時間の差があるけれど、どちらの筆者も時間を意識している点が共通している。
- ・どちらの筆者も、「考える」という点で共通している。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- ワークシートに二人の筆者の考えの共通点と、その根拠となる解釈を書かせ、発表させる。

【指示】「見つけた二人の筆者の考えの共通点をワークシートに書きましょう。筆者の考えのどの部分をどのように考えて、その共通点を見つけたのかも書きます。」

※見つけた共通点と、その根拠となる解釈を書き込めるワークシートを配付する。

【指示】「ワークシートに書いた共通点と、筆者の考えのどの部分をどのように考えて、その共通点を見つけたのかを発表してください。」

※発表された共通点と、どの部分をどのように解釈したのかを板書にまとめる。

このようになり (C2)

- 二人の筆者の考えの共通点を探そうと、筆者の考えに解釈を加えた結果をワークシートに書き、書いた内容を発表する。
- ・二人の筆者の考えには、「先祖」という言葉と「子孫」という言葉が使われている。「先祖」は、今生きている人より前の人々という意味だし、「子孫」は、今の自分よりあとに生まれ、生きていく人々という意味だ。この二つの言葉を比べると、どちらも、人々という点で同じだ。どちらの筆者も、森林と人々のことについて考えてほしいのではないか。
- ・同じ「先祖」と「子孫」という言葉を調べていた時に考えたのですが、「今生きている人より前」ということと、「自分よりあと」ということは、前か後かの違いはあるけれど、自分を中心にした時間ということ、共通していると言えないのではないかと思います。二人の筆者は、森林を時間の変化で考えてほしいと思っています。
- ・「思いをめぐらす」という言葉を調べてみたら、いろいろと考えるという意味がありました。どちらの筆者も、「考えよう」という点では、同じだと思います。森林について考えてほしいということが、二人の筆者の考えにある思いだと思います。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 筆者の考えに対する自分の考えを記述させる。
【指示】「ここまでの学習を振り返って、筆者の考えに対して自分の考えを書きましょう。」
- 【説明】「二人の筆者の考えの共通点を書いたワークシートの裏に、あなたの考えを書きましょう。」
- 【指示】「あなたの考えを書き終わった人は、近くの人とワークシートを交換して、互いの考えを読み合ひましょう。」

このようになる(Cn)

- 二人の筆者の共通点を探り、筆者の考えに対して解釈したことを手がかりに、自分の考えを記述する。
＜森林と人＞
 - ・わたしは、「森林と人々の使い方」ということで考えました。人間は、大昔から森林のめぐみを受けてきたし、今も、森林のめぐみを受けていると思います。このことは、『森林のおくりもの』を読んでも、『イースター島にはなぜ森林がないのか』を読んでも分かりました。人間がどのように森林を使うかによって、森林が残されたり破壊されたりすることも分かりました。森林をなくさないためにも、人間が森林の使い方を考えなくてはならないと考えました。
 - ・わたしは、「森林と人々の関わり方」について考えました。何千年も前から、人間は森林を使ってきています。しかし、その関わり方を間違えると、森林がなくなってしまう。また、前にテレビで里山が荒れているニュースを見ました。大事にしようとして、何も関わらなかつたら、それも森林を壊すことになるのだと思います。人間が森林と上手に関わる必要があるのだと考えました。
 - ・わたしは、二人の筆者の考えに共通する「人々」ということで、考えてみました。森林を使うのも、森林を破壊するのも、人間です。人間が森林をどのように使うかで、この先も森林が残されるか、それとも破壊されるかが決まるのだと思いました。わたしは、森林を残したいです。森林を残すために、わたしにできることは何かを考えていきたいです。
 - ・森林の使い方について考えました。森林は、私たちにたくさんのおくりものをくれます。けれども、そのおくりものを使ってばかりいると、後で大変なことが起きてしまいます。森林のおくりものを使わないと、私たちの生活が不便になってしまうけれど、使いすぎないようにしなくてはなりません。森林がなくならないように、使った分を植えていくなどして、森林を育てることもしなくてはならないと考えました。
＜森林と時＞
 - ・わたしは、「森林と時」について考えました。木は、すぐに大きく成長はしません。木材として利用するためには、何百年と育てていかなければなりません。今利用している木材も、何百年前に植えた人達がいたから使えるのだと思います。すぐには使うことのできない木です。森林には、長い時が必要です。だからこそ、今使えることに感謝しなければならないと考えました。
 - ・わたしは、「森林のこれまでとこれから」について考えました。今、私たちは、森林からのおくりものを使って生活しています。これは、これまでの昔の人からのプレゼントです。私たちの子どもや孫も、これからきっと森林のおくりものを使うはずで、これから先も森林からのおくりものが使えるように、これからの人達に今の私たちがプレゼントできるように、今の私たちがしっかりと森林を守っていくことが大切だと考えました。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 活用の場面で、構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、類似した既存の知識や経験をつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、目指す姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け2の後で、(共通点)(解釈)のように、筆者の考えを比較して分類し、筆者の考えを解釈しながら共通点を見出したかを、ワークシートの記述内容から検証する。
- ② 働き掛け3の後で、 のように、自分の考えを形成している姿になっているかを、ワークシートの記述内容から検証する。